

博物館ってどういうところ？

～「モノ」とおして郷土の自然・歴史・文化を学ぼう～

眞 嗣一（沖縄県立博物館館長）

博物館っていったいどういうところなの？
一口に言って「もの」と人間との関係を示す大量な情報を蓄積し、処理し、提供する場所だと言えよう。

だから現代の博物館では、「もの」を展示するだけでなく、博物館機能をとおして地域の課題に主体的に応えるため、さまざまなプログラムが準備されている。

過去を振り返るだけでなく、未来創造に活かす場を目指す我が沖縄県立博物館を例にとれば、常設展示はもとより社会のニーズにあった企画展や特別展のほか、沖縄の自然や歴史・文化をより多くの人々に理解してもらうことを目的として、普段博物館に足を運ぶことのできない離島や遠隔地で移動博物館を実施している。さらに、博物館が豊富に所蔵するいろいろな資料を通じ、自分たちの住む地域のことについてもっと深く知りたい方のためには、講演会、展示解説会、自然観察会、文化財巡りやグスク巡りといった各種文化講座が実施される。また、豆腐・黒糖・おもちゃづくり等の体験学習教室、映像や音響を通して芸術文化を紹介する博物館シアターといった館内・館外での活動も定期的で開催されている。そのほかにも総合的学習における学校との連携、ボランティア活動の推進、友の会活動の支援などさまざまな活動も展開されている。

今年度もまた魅力あるプログラムが用意されている。今年も是非博物館においでよ！



文化講座「グスク巡り～南部地区～」 糸数城跡にて

博物館事業のご案内（9月まで）

文化講座(午後2時～)

- | | |
|--|--|
| 5月15日(土)
戦後沖縄の女性
小野沢あかね(琉球大学助教授) | 7月31日(土) 野外 ※申込みが必要
沖縄の地形・地質・化石
座覇泰(県立博物館指導主事) |
| 6月19日(土)
金細工の技
又吉健次郎(金細工師) | 8月21日(土)
風俗画
津波古聡(県立博物館学芸課長) |
| 7月4日(日)
琉球漢詩について
上里賢一(琉球大学教授) | 9月18日(土)
近代沖縄における泡盛の変遷
萩尾俊章(教育庁文化課係長) |

博物館シアター(1日2回上映 10:00～、14:00～)

- | | |
|--|---|
| 5月1日(土)
子どもの日映画館
15少年漂流記
ロビンソン・クルーソー 無人島の冒険 | 8月1日(日)
火垂の墓 |
| 6月5日(土)
戦争について考える
戦争-子供たちの遺言-
太平洋戦争と沖縄 | 9月4日(土)
沖縄伝統工芸の世界I
壺屋の陶器～神々の器～
壺屋焼 |
| 7月3日(土)
沖縄の記録映画
沖縄730 道の記録
ウリミバ工根絶の記録～総集編～ | |

体験学習教室(9:00～12:00、定員40名、申込みが必要)

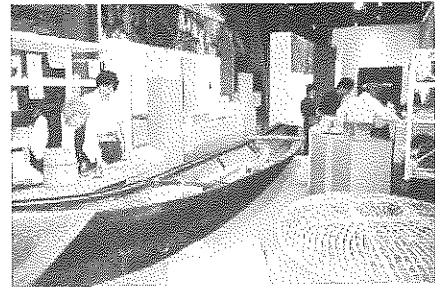
- サトウキビを栽培して黒糖をつくらう(全4回)
- | | |
|---------------------|-----------------|
| ①苗取りと植え付け 4月24日(土) | ③刈り取り 1月15日(土) |
| ②観察学習と手入れ 10月23日(土) | ④黒糖づくり 1月16日(日) |
- | | |
|---|---------------------------------|
| 5月22日(土)
総合的な学習のための豆腐づくり
石うすを使った豆ひきと豆腐づくり | 8月7日(土)、8月8日(日)
化石のレプリカをつくらう |
| 7月24日(土)
木の実でおもちゃをつくらう | 8月14日(土)
竹のおもちゃづくり |
| | 9月25日(土)
しっくいシーサーをつくらう |

「あじまあ」展 国立民族学博物館にて開催中

あじまあ・・・それは沖縄のことばで“十字路”のことです。黒潮と風に囲まれた沖縄は、文物が往き来する交通・交易の要衝として繁栄し、独自の歴史と文化を築き上げました。また、東西1,000km、南北400kmの広大な海域に点在する島々は、それぞれに個性的で魅力に富んだくらしと文化を形成し、驚くほど多様なすがたを見せてくれます。こうした沖縄のすがたを、沖縄県立博物館が収蔵するさまざまな資料を通して紹介しています。

今回の展示は、沖縄からのメッセージを民博（国立民族学博物館）から発信するという初の試みで、沖縄県立博物館が企画し、沖縄県立博物館と民博が共同で制作しました。

大阪に行く機会がありましたら、ぜひご覧になって下さい。これまでとは違ったあたらしい沖縄のすがたを発見できますよ。



展示作業の様子

あじまあ 沖縄の伝統とくらし — 沖縄県立博物館収蔵資料展 —

開催期間：2003年10月2日～2004年6月1日

会場：国立民族学博物館 常設展示場

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1 TEL 06-6876-2151

メールアドレス：<http://www.mirpaku.ac.jp/>

企画展「戦前・戦後の文化財保護～仲座久雄の活動をとおして～」

企画展「戦前・戦後の文化財保護～仲座久雄の活動をとおして～」は、建築家・仲座久雄の足跡をとおして、沖縄における戦前・戦後の文化財保護の歴史をたどり、またこれからの文化財保護のあり方について考える布石を投じることを目的として、平成16年2月10日～2月29日の期間で実施されました。展示会の模様は県内各社のマスコミに取り上げられ、閉幕前日までに「会期を延長してほしい」との要望も多数寄せられるほどの盛況ぶりでしたが、惜しまれつつ幕を閉じました。多数のご来館ありがとうございました。仲座久雄の功績と資料蒐集への並々ならぬ情熱に敬意を表するとともに、また、その貴重な資料を保管なさってきたご遺族のご尽力にこの場をかりて感謝申し上げます。



設計事務所にて 仲座久雄氏

学校への対応

平成15年度は完全学校週5日制と新学習指導要領の全面実施により学校等の博物館利用が増えてきました。教科の学習や総合的な学習などで174校の生徒14,349人が博物館に來館しました(平成16年3月23日現在)。今回は、博物館に見学に来た小・中・高校生の学習の様子を紹介します。

博物館では、県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒とその引率者が、教育課程に基づく教育活動として常設展を視察する場合などには入館料を免除することができます。また、先生方の要望により、民具体験や、講演会、ビデオ上映などを行うこともできます。詳しくは県立博物館ホームページをご覧ください。

<http://www1.nirai.nie.jp/okl-muse/>



10月23日

宜野湾市立大山小学校の生徒が見学に來ました。小学校の博物館学習で一番多いのが、民俗展示室と結びつけた民具体験です。

体験学習教室「サトウキビを栽培して黒糖をつくろう」

県立博物館の体験学習教室はスタートして11年目です。体験農場を利用して実施している「サトウキビを栽培して黒糖をつくろう」の体験学習は、体験学習の中でも人気講座のひとつになっています。

サトウキビの採苗から植苗体験、育苗や手入れ体験、刈り取り体験、黒糖づくりの体験等、サトウキビから黒糖に姿を変えていくまでを追いかけていく講座です。4月の植え付け体験から始まるこの講座は、1月の黒糖をつくる講座まで、計4回実施します。一年近く続く講座ですが、サトウキビのことを学習する最高の場になっています。

今年度の講座にも、小・中学生の親子等、62名の受講生が応募して自らの学びを楽しんでいました。サトウキビの歴史に関する学習や栽培地の雑草（帰化植物）も講座の中にプログラムされていますが、一番楽しみにしているのは、黒糖をつくる講座です。教育普及資料の「三転式サトウキビしぼり機」を自分たちで回す圧搾体験、不純物を取り除くこしとり体験、石灰の投入体験、シンメナービで加熱しながらの攪拌体験、黒糖の型取り体験等、楽しみ満載の講座です。



サトウキビの刈り取りの様子

サトウキビを栽培して黒糖をつくろう

受講者募集！

(募集期間：4月1日～4月15日)

- ①4月24日(土)苗取りと植え付け
- ②10月23日(土)観察学習と手入れ
- ③2005年1月15日(土)刈り取り
- ④2005年1月16日(日)黒糖づくり

対象：児童・一般 定員：40名

参加費：1000円(材料費、保険料込み、4講座分)

申込み・お問い合わせ先 (098)884-2243

博物館学芸員実習を終えて

知念正作 (沖縄国際大学)

私達は2003年の10月20日から10月31日まで、博物館学芸員資格取得のための実習を県立博物館で受けました。

県内外から実習生が集まり、楽しい雰囲気の中で学ぶことができました。

実習は、館長と一緒に首里の町を散歩しながら文化財について学んだり、埋蔵文化財センターで火熾し機を使っての体験的な実習、博物館ボランティアの皆さんと一緒に、小学生の博物館見学のお手伝いなど、楽しい実習になりました。また、普段は見ることでできない収蔵庫や、収蔵品を間近に見ることができたのも、良い体験でした。

博物館の皆さんありがとうございました。

県立博物館では、年に2回学芸員実習を行っています。今年度は1回目は6月2日から6月13日まで、2回目は10月20日から10月31日の日程で行いました。今回は実習生の感想文を紹介합니다。

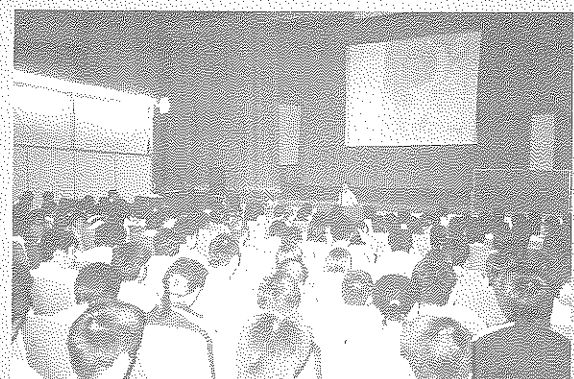


首里の文化財めぐり 首里城にて



12月12日

沖縄県立盲学校中等部の生徒8名が博物館見学を行いました。動物の剥製や民具などに触れて学習しました。



6月6日

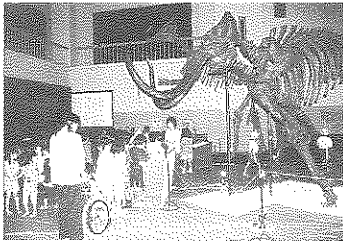
沖縄県立首里高等学校の生徒480名が博物館を訪れました。展示品の見学の他、学芸員が「沖縄の世界遺産」について講演を行いました。

最近の催しから

第28回

移動博物館 in 伊平屋

11月21・22日



移動博の様子

沖縄県立博物館では、日頃博物館を訪れる機会の少ない地域の方々に、博物館活動の一端にふれていただくため「移動博物館」を昭和54年度から毎年実施してまいりました。平成15年度は、「第28回移動博物館」を伊平屋村で開催しました。

開催期間は平成15年11月21日（金）、22日（土）の2日間で伊平屋村民体育館を会場で実施しました。

展示会は、「大むかしの生物」「沖縄の自然・歴史・暮らし」の2つのコーナーで構成され、大型の恐竜骨格標本をはじめ、沖縄の自然・歴史・文化を総合的に把握できるように企画されており、約400点の資料展示を行いました。

また、会期中に小中学生や、一般の方々を対象にして、伊平屋島で見られる野鳥などの野外観察会も実施しました。2日間で、651人の観覧者がありました。

まなびピア沖縄2003

11月27日～12月1日

第15回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア沖縄2003」が沖縄コンベンションセンター周辺を主会場にして、11月27日から12月1日まで開催されました。

「チムどんどん体験コーナー」に出展参加した沖縄県立博物館は、ピロウ（クバ）を材料にした民具の体験、木の実や竹を使ったおもちゃ、空き缶をリサイクルしてのおもちゃづくり等で当館の活動を紹介しました。おもちゃづくりの体験教室は、会場でも人気のコーナーになり、県内の小・中・高校生や県外の生涯学習関係者等約2,500名の人々が参加しました。沖縄県立博物館を県内や県外に向けて発信することができました。



まなびピア2003の様子

沖縄織物へのメッセージ ～田中俊雄の研究～

10月28日～12月7日



展示の様子を見る田中駒蔵氏

特別企画展「沖縄織物へのメッセージ～田中俊雄の研究～」が、10月28日から12月7日まで実施されました。

田中俊雄（染織研究家）の沖縄織物に関わる原稿、織物裂地等を展示し、彼が沖縄織物をどのように見つめ、考えていたかを、没後50年を経た今、ふりかえる企画展でした。

田中駒蔵氏（実弟）を米沢から招き、開会式をむかえた展示会は、会期中9,168人の観覧者がありました。

田中家からの借用資料の多くは、沖縄のために役立ててもらいたいという、御遺族の意向により、御寄贈いただく予定です。

平成16年度パネル展・企画展・特別展

パネル展

- ◇博物館を知ろう 5月11日～5月23日
- ◇博物館新館ができます～博物館新館の広報展～
8月3日～8月29日

企画展

- ◇新収蔵品展 6月22日～7月18日
- ◇自然界のエイリアン～海をこえて持ちこまれた動物たち～
11月9日～12月12日

特別展

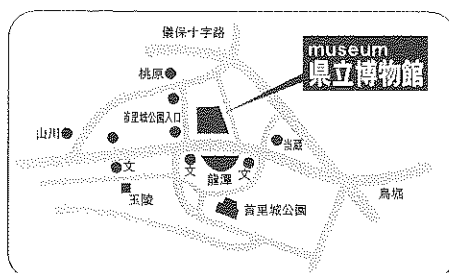
- ◇「いま・むかし、おもちゃ大博覧会～入江正彦 児童文化史コレクション～
2月15日～3月13日

沖縄県立博物館

〒903-0823
沖縄県那覇市首里大中町1-1
TEL (098)884-2243 FAX (098)886-4353
http://w1.niraine.jp/oki-muse/
E-mail: oki-muse@niraine.jp

利用案内

開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
休館日 月曜日（ただし、祝日の場合は翌火曜日も休館）、祝日（子どもの日、文化の日を除く）、慰霊の日（6月23日）、展示替え・燻蒸などの臨時休館日



交通案内

- 那覇空港発—
★125番（知花首里線）「桃原」バス停下車、徒歩10分。
- 市内バス—
★1番（首里識名線）14番（泊線）17番（石嶺開南線）の「首里城公園入口」または「当蔵」バス停下車、徒歩3分。
★9番（小禄石嶺線）の「桃原」下車、徒歩10分。
- 市外バス—
★46番（糸満西原線）の「首里城公園入口」または「当蔵」バス停下車、徒歩3分。
★97番（琉大線）の「桃原」バス停下車、徒歩10分。
- モノレール—
★「儀保駅」または「首里駅」下車、徒歩10分。